

第 4 回 金剛地区活性化に向けた意見交換会 まとめ

1. 開催概要

- 日時：平成 28 年 12 月 17 日（土）午後 1 時～3 時
- 場所：金剛連絡所 2 階大ホール
- 参加者：15 名
※オブザーバー：NPO 法人きんきうえび、けあばる金剛
- プログラム
 - ① あいさつ（まちづくり推進課）
 - ② これまでのおさらい
 - ③ 金剛地区再生指針の骨子（案）について
 - ④ 来年度からの具体的な取り組みについて
 - ⑤ その他

2. 当日の様子



3. 主な意見

（1）金剛地区再生指針の骨子（案）について

- 目指す将来像について、約 20 年前に「ふるさと」と言えるまちになるようになればよいという議論があったと聞いている。金剛地区は、環境もよいと思う。11 月の第 3 回富田林市金剛地区再生指針策定協議会においても、金剛駅前が奇跡的に上質なまちなみが残っているという意見もあったようだ。金剛地区のまちなみ、環境がまちの目玉であることを打ち出したテーマを掲げられないだろうか。
- 川西地区にある、市福祉会館では囲碁などの様々な活動が行われている。金剛地区ではそのような活発な活動がないように思う。
→金剛地区内の老人憩いの家では、囲碁などの活動が行われており、また利用者も多い。た

だ、そのような情報が全ての住民に行き渡っていないということが課題なのかもしれない。

- 開発当初、金剛地区といえば、一般的に金剛山のふもとにあるようなイメージを持っていた人が多いように思う。現在は、地区外の人がどのようなイメージをもっているだろうか。
 - 私が千里ニュータウンがある北摂地域をよく知らないように、地区外の人でも金剛地区のことをよく知らないのではないだろうか。また、富田林市自体が府内ですら知れ渡っていないように思う。
 - 以前、まちで育った子どもたちに戻ってきてほしいという意味で、金剛地区が“ふるさと”となるようにと考えていた。
 - 府の北・中部あたりでは、高層マンションが多く建設されているが、最上階でも人が住み、夜にまちを通っても灯りがもれている印象がある。一方、金剛地区の団地は、4・5階の上層階が空いており、まちが暗い印象だと思う。
 - 夜でも灯りがあちこちでとまり、キラキラしていることが必ずしもよいとは限らないように思う。
- 若者を呼びこむには、わくわくしたものが必要だと思う。そのような意味で、資料に示されたような“きらめき”というのは、視覚的に見えるキラキラしたものではなく、住民一人ひとりの活動が活発であることを示しているのではないか。住民の活動などが、生かされ、つながり、発展していくことで、まちのきらめきが出るという意味だと考えると、“きらめき”という言葉もよいと思う。また、それぞれの活動を“育む”“つなぐ”という言葉も入っていればよいと思う。
- “きらめき”という言葉は、世代によって印象が異なるのでは。
 - 将来像を一言で言うのは難しいので、説明文を入れてはどうか。
 - 視覚的にキラキラしたという意味以外で、“ふれあう”“育む”などの言葉を補って、どの世代でも、誰でも同じイメージを持つことのできるキャッチフレーズとしてはどうか。
 - “きらめき”という言葉はよいと思うので、漢字で表記してはどうか。
- “ふるさと”という言葉は、自分が育ってきたという意味で、“住む”ことに重点を置いて考えられると思う。
 - “ふるさと”という言葉の意味としては、資料にあるような“愛着”や“誇り”に近いが、ここにいてよかったという安心感なのではないだろうか。
 - 以前、金剛地区にきた若者から、子どもを育てるにはいいまちだといわれたことがあった。このような環境の良さを大事に思う感覚は、まだ若い世代に残っているということを確認し直すべきだと思う。また、以前友人にも高級住宅街のようなところだと言われたこともあった。金剛地区は、落ち着いたイメージのあるまちである。これを残すべきだし、誇るべきであると思う。そのようなことを踏まえたキャッチフレーズを考えられないだろうか。
 - 金剛地区は、大阪市内と比べて空気がとてもおいしいと聞いたこともある。駅前が再開発などをされなかったことで、落ち着いた環境が醸成されたまちとなっているのではないだろうか。
- 将来像の実現に向けた取り組み4では、「まちづくりのルールを考える」ということがあげ

られているが、戸建て住宅の敷地面積の分割などをイメージしているのか。

→これまでの議論の中で、法規制により、まちの中に店舗ができにくいと、部分的に見直しを考えてもよいのではという意見があった。法規制を見直すということは、すぐに答えがでるわけでもないし、住民のみなさんが合意しなければ実現できないと思う。そのため、中長期的に議論できればよいと思う。

また、まちなみを守るような取り組みとして建築協定の策定などの取り組みもまちづくりのルールとして考えられると思う。(事務局)

- 取り組み2では、分譲マンションの建替えや改修に関する事も書き込まれていることも考えると、商業施設を併設したマンションなどに建替えるようなことをイメージする。私個人としては、金剛地区の緑豊かな環境、中層団地によるつくられる空間などがよいと感じており、まちの環境を守ることとの整合性に欠けるように感じる。また、ふれあい大通りの再生といっても、どのように取り組むかということにも関わる。

今後10年間の取り組みとして、取り組み2のような具体的な書き込みをするのか。

また、金剛のまちなみを守りながら、若者も惹きつける魅力をつくることも可能ではないだろうか。

- 分譲マンション等の建替えや改修について、現在の団地にエレベーターがなく、高齢者等が住みづらいという課題に取り組むという意味もあるのではないだろうか。このような課題を克服せずに、本当に住みよいまちと言えるのだろうか。
- まちの機能として、カラオケなどのような高齢者が楽しめる場所があればよいと思う。
→住民自ら、そのような場所を作ることもできるのではないか。団地の集会所を借りて、サークルなどを作って開催すればよいのではないだろうか。
→地区内でグラウンドゴルフも行っている。老人会に入れば、このような情報ももらえる。
- 世代を越えて楽しめるということが大切だと思う。ただ、住みよいまちといっても、世代によって異なる。
- まちの将来像として、キャッチフレーズを作ることも重要だとは思いますが、もっと大切なのはそのキャッチフレーズを育てることだと思う。
- 金剛地区の大きな課題としては、ピュア金剛の空き施設をどうするかということだと思う。
- 最近引越してきた住民の意見として、金剛地区は落ち着いた環境があるということを選んだ。鉄道駅が近いまちで、これだけ落ち着いた環境のあるまちはないと思う。
- 金剛地区の再生として、若者を呼び込むことも重要かもしれないが、これまで暮らしてきた高齢者等が安心して住み続けられるまちを目指すということに主軸を置いてもよいのではないだろうか。そのような視点から、他のまちとの差別化をはかってもよいのではないか。将来像実現のための取り組みでは、様々な取り組みがあげられているが、金剛らしさが欠けるように思う。高齢者が暮らしやすいまちとして、人を呼び込むようなことも考えられるのではないか。
→私たちも以前、そのような考え方をした。ただ、自分が年齢を重ねるごとに若者を呼び込

むことも重要という考え方に変わってきた。

→金剛バルでは、若い方がかなり集まっており、こんなにもいるんだと驚いた。

金剛バルでまちの活性化の取り組みについてアンケートを行ったが、“子育て”に関する取り組みが最も票数が多かった。一方若い方でも、防災・防犯の取り組みに票を入れた方もおり、安定したまちを求めているんだと実感した。

→私も、治安が良いということが理由で選んだ。

- まちの緑を絶対に守りたいと思う。

まちの将来像としては、“若者も高齢者も集まる”“世代を越えた”ということがキーワードになるのではないだろうか。

→若者を呼び込むためには、新婚家庭への家賃補助などの取り組みを行政で考えていただいてもよいのでは。

→UR賃貸住宅の上層階で空いている住宅について、補助を行えば呼び込めるのではないだろうか。

- 資料には様々な取り組みが示されているが、具体的な計画案がいつ示されるのだろうか。ふれあい大通りの再生の取り組みとして、フリーマーケットや屋台を出している地域などもあるので、参考となるのではないか。
- 金剛地区は、私の友人から閑静なまちだと言われており、街路樹がきれいで四季が感じられる。街路樹は残したいと思う。
商業施設の整備やマンションの建替えなどが仮に行われても、必ずしもまちなみや環境を壊すとは思わない。建物の造り方で、緑を残すなどの工夫ができると思う。また、商業施設等の整備による恩恵を受けるのは、若者だけでなく高齢者も同じだと思う。
- 金剛地区の活性化のためには、若者を呼び込むということが基本だと思う。明るくなるし、にぎやかになる。
- 先日、中学生の地域学習の成果発表を聞く機会があったが、“暗い”“買い物や遊べる場がない”などの意見があがっていた。私もそのように思う。金剛地区の活性化のためには、若者も高齢者も集える場が必要だと思う。
- まちの活性化においては、ターゲット世代を絞ることも必要だが、それによりまちの景観等も偏ってしまう恐れもある。
- 開発当初に考えられたコンセプトが変わってきているので、根本的に変えていくことが必要なのではないか。また、賃貸・分譲団地のエレベーターがないことが大きな課題であると思う。それを改善していく上で、緑を守ることも重要である。
- 実家のある伏山では、本日 10 時から朝市が行われ、その近くでもゲートボールが行われており、賑わっていた。遊べる場所があるということが重要ではないだろうか。そのためには、遊びを教える人、場所があるという情報の共有が必要だと思う。
- キャッチフレーズとして、今日の議論にあったように、静かな環境、落ち着いた環境を表す“閑静な趣”のようなまちの良さを表すキーワードが必要なのではないだろうか。そこに“き

らめき”を入れていくようなイメージではないだろうか。

- 以前、カナダに住んでいたまちが、金剛地区のようであったが、そのまちが“パークタウン”という名で、まちの環境を表す言葉だと思う。参考にしてもらえればよいと思う。

(2) 来年度からの取り組み体制について

- 市では、現在公共施設等総合管理計画の検討を行っているようだが、公共施設をはじめとして、大きな枠組みで必要なシステム等を考えている。このようなシステム等が、私たち住民の取り組みと整合性がなければならないので、推進体制においても市が参加すべきだと思う。
- 学識者やコンサルタントのような専門家にも入っていただけるのか。専門的な意見を伺いながら取り組むことができればよいと思う。
→「(仮称) 金剛地区再生指針推進協議会」がそれに該当するものとする(事務局)
- 取り組み体制(案)の中には、事業者も入っているが、その中でも南海電鉄、UR都市機構、行政は、他の事業者と立場が異なり、住民と運命共同体のような関係だと思う。専門的な分野、広い視野で私たちの取り組みを支えていただければよいと思う。
→例えば、行政は、住民と一緒にまちづくりをいただくという面と、住民が使う公共施設等の場を管理するという二面性を持っており、同じ立場で話すことが難しいと思う。ある部分では一緒に議論する、一方違う部分では事業者として取り組んでもらうことが必要だと思う。そのため、南海電鉄、UR都市機構、行政の三者で議論・連携する連絡会のような別組織があってもよいのではないか。私たちの住民団体と車の両輪のような形で動いていかなければならないと思う。
- 金剛地区は、開発から約50年という歴史がある一方で、まだまだ新しいまちだと思う。私自身、意見交換会に参加して初めて知ったようなことも多い。このような議論の場ができたことは、とてもよいことだし、市の役割が大きいと思う。今後も、一定期間このような話し合いの場の設定を支えていただきたいと思う。
今後、どのような関わりを持っていただけるか。
また、この場で議論した結果を踏まえ、重要度の高いような取り組みについて、予算をとって進めるようなことも考えてほしい。
- 以前に連合自治会が必要という意見もあったが、この意見交換会や資料に示された推進体制は、ニュータウンの新しい自治組織のあり方なのではないかと思う。住民だけではできない取り組みもあるので、南海電鉄、UR都市機構、行政と連携して、推進体制を組織できればよいと思う。
- 大阪狭山市でも、このような議論の場を設けており、先日資料を見たが、非常に参考になった。行政は、近隣市町村とも連携して情報共有などをしてはどうか。

4. その他

○今後の予定について

- 金剛地区再生指針は、本日の議論を反映させて、素案を作成する。その後、第4回協議会(1/19開催予定)で議論し、2月にパブリックコメントを行う。パブリックコメントの期間は、2/1~25日を予定している。
- 次回意見交換会は、3月初旬の予定。
- 1/21(土)午前10時~(場所:青少年スポーツホール2階会議室)には、大谷大学大学生によるまちづくりの提案報告会を行う。参加希望者は、富田林市まちづくり推進課に連絡いただきたい。
- 11/26(土)、「金剛バル★ウィンターランド」に「金剛地区活性化に向けた意見交換会」メンバーで出店した。飲食物の販売と共に、簡単なアンケート調査も実施したところ、「子育て支援、高齢者支援、また防犯・防災等の安全安心」に関する取り組みが大切と考える人が多かった。
- 12/26(月)午前10時~、ふれあい大通りを綺麗に保つための清掃作業を行う。ぜひ参加いただきたい。(集合は、金剛中央公園テニスコート前に9時50分)

以上